

こむぎ通信

令和6年1号

今年は消雪が早く、1月以降の気温が高いため、生育が早まっています。
消雪後から幼穂形成期までに、窒素成分 2kg/10a を目安に追肥を行ってください。
温暖な天候が続けば、幼穂形成期は2月末～3月中旬となる見込みです。

1 気象状況

(1) は種後の気象状況 (十和田市アメダス)

は種後は平年より高温多照傾向で推移しており、12月29日に消雪が確認された。
根雪期間は15日で、平年よりかなり少ない(平年75日)。

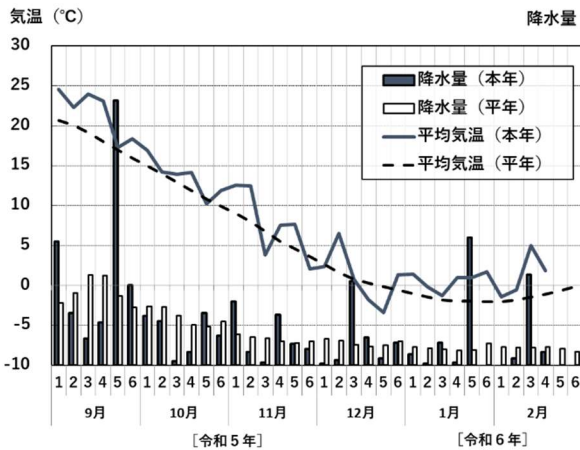


図-1 気温と降水量

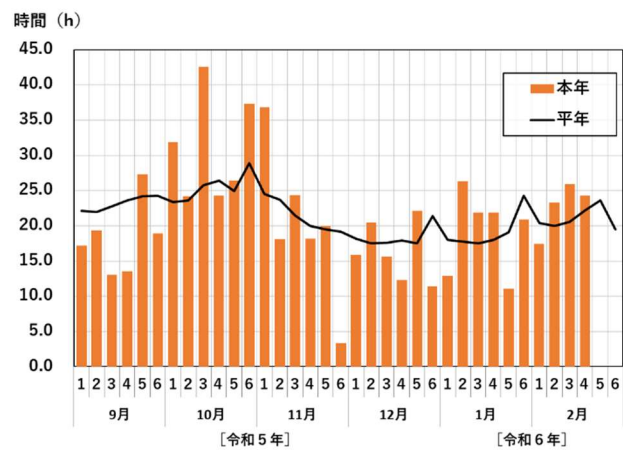


図-2 日照時間

2 消雪後～幼穂形成期の追肥作業

越冬後の生育を促進し茎数を確保するため、消雪後～幼穂形成期に追肥を行う。本年はほ場の消雪が早く、高温多照の日が続いており、幼穂形成期の到達日が平年(3月30日頃)より早まる可能性があるため、早めに作業を開始する。

追肥量は10aあたり窒素成分で2kgを基準とするが、ほ場の地力や茎葉の繁茂状況等を考慮して加減し、生育量が旺盛な場合(茎数が1000本/m²を超える場合)は追肥量を減らす。

なお、幼穂形成期が早まることで、例年より止葉抽出期までの期間が長くなり、肥料が流亡するおそれがあるため、幼穂形成期の追肥を2回に分けた方がよい。

3 雑草防除

雑草の生育が進むと除草剤が効きにくくなるおそれがあるため、早めに除草剤を散布し、雑草の生育を抑える。

(参考) 越冬後に使用できる薬剤

除草剤名	適用雑草	使用時期	使用方法	10aあたり 使用量 (散布液量)	使用回数
アクチノールB 乳剤	一年生広葉雑草	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	雑草茎葉散布 又は全面散布	100～200 mL (70～100 L)	2回
バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	一年生雑草 (イネ科を除く)	生育期(但し、収 穫45日前まで)		100～200 mL (70～100 L)	1回

※農薬を使用する前に必ずラベルを確認し、濃度や使用回数に注意して散布すること。